

トップは  
語る

## 夢のある「制服文化」の 創造に向かって

中国  
支部

菅公学生服株式会社 代表取締役社長

尾崎 茂 氏



2013年8月、決意も新たに社名変更をした菅公学生服株式会社は、創業から160年、学校制服業界でトップのシェアを誇る。制服を作るだけにとどまらず、子どもたちの夢を応援する「カンコードリームプロジェクト」を発足し、積極的に活動を展開している。学生服は入学式という納期に間に合わせることが不可欠だが、同社は自社生産比率90%以上、全国約50か所の営業拠点という強みを活かし、迅速な連携でニーズに応えている。東日本大震災の折にはいち早く無償での支援を決定。総力を結集して生産された学生服は、無事被災した子どもたちの入学式までに届けられた。

おざきしげる／岡山県倉敷市出身。青山学院大学国際政治経済学部卒業。1998年尾崎商事株式会社入社。取締役、専務を経て2006年から現職。2013年は公益社団法人岡山青年会議所の理事長も務める。常に自らに問い、社員にも言い続けているのは「できないって誰が決めた？」というフレーズ。既成概念にとらわれてできないと決めつけたり、行動も起こさずにあきらめることが大嫌い。挑戦のないところには成長もないと考えている。

### 菅公学生服株式会社

- 所在地：〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町15-1 岡山リットシティビル5F
- TEL：086-898-2500（代表）  
<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>
- 創業：1854年
- 設立：1929年
- 資本金：1億円
- 売上高：317億1,900万円（連結2011年度）
- 従業員数：2,557名（連結2012年7月現在）
- 関連会社：エクセル株式会社、シーユービー株式会社、Catch 株式会社

### 歴史を礎にブランディングを再構築

当社は現在2,500名を超える社員を有する会社に成長し、私も社長に就任して丸7年経ちました。学校制服市場とはいえば、少子化が進む中、社会情勢も学校環境も変化し、子どもや保護者のニーズが多様化しています。

この変化する市場で優位に立つためには、学校制服そのものの商品価値もさることながら、学校生活全般にわたる提案やサービスの提供が欠かせないと感じています。良いモノを作れば売れる、という時代ではなくなってきています。

こうした状況の中、当社が進路を切り開くためには、モノ作りやサービスに対する認識を社員全員が共有しながら、明確な目標に向かうことが重要だと感じました。そこで、社内の有志39名とともにブランディングを再構築するプロジェクトを立ち上げました。企業ブランド力を強化するという観点で、商品はもとより、コミュニケーションのあり方やサービスを見直そうと考えたのです。

そしてブランドビジョンというのは、それがいくら卓越したものであっても、上から一方的に発信しただけでは決して社内には浸透しません。39名のチームメンバーが参加することによって、組織のモチベーションがあがり、ブランドビジョンを社内全体に浸透させることができるのです。

このブランディングの一環で、提案にあがってきたのが社名変更です。これまで「KANKO」あるいは「カンコー」という自社ブランドで学校制服を展開してきましたが、この由来が平安時代の学者であり、学問の神様と称される菅原道真公の尊称「菅公」であることをご存じない方も多々いらっしゃるようです。

無類の学者であったばかりでなく、政治家としても世の中に尽力した菅原道真公は、学校制服を製造する当社にとって非常にシンボリックな存在です。そこで、自社ブランドの由来を見つめ直し、原点にかえり、これに誇りを持つという意味で「菅公」を冠した社名に変更することを決定したのです。

ブランディングはまだ緒についたばかりです。社内はもちろんのこと、代理店、販売店、協力工場もあわせて、ひとつの世界観で共通の目標へ向かわなければなりません。この社名変更をひとつのきっかけにして、社内にも社外にも強いメッセージを発信していきたいと考えています。

### 挑戦を続ける気風が長い歴史をつむぐ

当社は1854年（安政元年）に創業しており、160年もの長きにわたり存続することができたのは先人たちの絶え間ない努力と精進の賜物です。ただ、私が常々感じているのは、保守的な姿勢で取り組んでいたなら、ここまでの成長はなかっただろうということです。

ともすれば十年一日のごとく思われがちな学校制服ですが、数十年前と比較したら子どもたちの体格は歴然と変化していますし、年々世の中の嗜好は移り変わっています。伝統の技術を守ることは大切ですが、ただ守り続けるだけではニーズに応える商品は作れません。時代の空気を的確に読み、それを先取りして商品に反映させる工夫が重要なのです。

時々、30年前、40年前の学生服やCMを見返すことがあるのですが、その発想の斬新さに感心したり、驚かされたりすることがあります。その頃と比較すれば、いまは軽くて丈夫な素材が開発され、着心地の良いユニフォームをより細密に作る事が可能に

なっていますが、果たして数十年前の意気込みを超える仕事が今できているだろうか。いつも自問自答していることです。

私が自社の長所を意識するようになったのは、入社してすぐ倉敷工場へ配属された時です。生産管理を担当していましたが、その時に感じたのは、従業員がもつ高い愛社精神でした。祖父のことを褒めてくださる方もいました。祖父は特に福利厚生や社内コミュニケーションといった基盤づくりに尽力した人で、それが敬愛の対象になっていたのでしょう。

やはり会社は人が支えるものだという思いを強くしました。それまでは漫然と、代々続いてきた会社で祖父も父も社長を務めたという認識があっただけでしたが、あらためて、素晴らしい資質をもった会社に入社したという誇りを感じたのです。

## 環境をも変えてしまう制服の大きな力

学校制服を作る立場として大きな醍醐味を感じるのは、制服は採用していただき納品して終わり、ではないということです。子どもたちが制服を身につけることによって、時には学校や組織を変えることができるのです。

例えば、気に入った制服を身につけた子どもたちは学校や勉強への興味が高まり、学校への帰属意識も強くなります。これが良い効果となり、積極的に学校行事に参加する子どもが増えたり、授業への集中度が上がったり、学校内の結束が高まったりします。それはやがて、学校に対する高評価につながり、入学したい、入学させたい、あの制服が着てみたい、という人が増えてくるといふ相乗効果もありえるのです。制服が変わることにより、学校を取り巻く環境が大きく変化するのです。

たったひとつの学校制服が、子どもたちの気持ちをあげ、学校の魅力をあげ、地域の魅力をあげることにつながるのです。

スポーツのユニフォームも同じです。チームイメージを象徴し、ユニフォームを身につけることで連帯感が生まれ、プライドにつながります。ユニフォームを変えれば、強そうに見えるとか、弱そうに見えるとか、話題にもなります。

こういうことが制服の効用であり、制服は非常に尊いアイテムだと思っています。学校制服を製造するのは醍醐味のある仕事なのです。

当社では着用者である子どもたちの目線でモノ作りを行うために、「ココロ」「カラダ」「時代」「学び」の4つの視点からなる「学生工学」というコンセプトで継続的な体型調査や研究を行っています。

時代の変化や価値観を読み取り、耐久性と軽さに優れた素材の開発、着心地が良く学生の美意識に合致するシルエット作りなど、制約がある中で最も「いま」にふさわしい制服を送り出すために努力しています。

## 学校生活を応援するサポーターとして

今回のブランディングでは、商品のみならず、商品を取り巻くサービス体制を強化していくことを明言しています。

そのひとつとして、子どもたちの「夢をえがく、はぐくむ、かなえる。」をテーマにWEBなどのメディアを用いながら、「カンコードリームプロジェクト」と名付けたさまざまなイベントや活動を展開しています。

例えばいま力を入れているのがダンス授業支援。これは、文部科学省の指導要領により体育の授業でダンスが必修化されたことをうけ、それをサポートするために当社が取り組んでいるプロジェクトです。

自分たちが踊ったダンス動画をWEBに投稿してもらいコンテストを行う「カンコーくるくるダンスコンテスト」をはじめ、授業にそのまま取り入れていただけるダンスDVDの制作やダンス講習会など、子どもたちや先生が目標を持って、明るくハッピーになれるような企画を考えています。

他にもスポーツ大会を支援したり、菅原道真公にちなんだ祈願のイベントを企画しており、今後もユニークな企画を続々と考えていくつもりです。

いま教育現場が疲弊し、道徳意識が薄れてきたと言われます。個の権利を尊重するあまり「和を以て貴しとなす」という言葉も死語になりつつあるようです。さらには、面倒なことにかかわり合いたくない、問題になるのを避けたい、という理由から、人と人が膝を突き合わせ正面から話をするという機会も少なくなっている気がします。

制服を製造しているメーカーとして、これは淋しいことですが、人生の中で最もかけがえのない時を子どもたちが健やかに過ごせたら、と切に願います。ですから、私たちなりに精いっぱい、子どもたちの豊かで楽しい学校生活の思い出づくりを応援していきたいと考えているのです。

「カンコードリームプロジェクト」のさまざまな取り組みの根底にあるのは、サポーターとしての当社の熱い思い。これからもずっと、子どもたちのサポーターとして、着て楽しい制服づくりを考え、ハッピーな学校生活を応援していきます。



新社名披露会の後ブランディングプロジェクトのメンバーと

トップは語る こぼれ話はウェブサイトへ

eふぁみり もあわせてご覧ください!  
<http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/>

eふぁみり

全国にいる同年代の経営者の方たちとの交流は、人生にとっての大きな勉強だと仰る尾崎社長。